

## ロープ取り扱い

### 【ロープ使用上の留意事項】

- ・変質・変形の著しいもの、または水分を含んだものは使用しない。
- ・踏みつけたり、地上等で引きずったりしない。
- ・必要以上に衝撃荷重を与えたり、摩擦を加えない。
- ・巻いたまま高所から落下させたり、ロープの上に重量物を落としたりしない。
- ・曲折部にかける場合、毛布・布等の緩衝物をあてる。
- ・極端な折れ・キンクを生じさせるようなよじれ等、不自然な状態のまま使用したり、長時間荷重をかけたままにしない。
- ・ロープを複数使用する場合、色等により識別する。
- ・ロープを使用し、人員・資材等を搬送する際、両端または結着部以外は節を作らないよう、必要な長さのロープを使用する。

### 【ロープ結索上の留意事項】

- ・ロープに無理を生じさせないように注意する。
- ・結索の際、ロープの交差・重ね等は必要最小限にする。
- ・結索したロープは、結び目を整理し、緩みのないようにする。
- ・結索したロープの手の部分は、半結びをとった場合も含めて、握りこぶし以上の余長をとる。  
ただし、必要に応じ、有効に手を利用し、または処理した場合を除く。

### 【ロープ保管上の留意事項】

- ・紫外線・直射日光が当たらない場所に保管する。
- ・風通しを考え、むれのないように換気する。
- ・湿気を避け、適度に乾燥させておく。
- ・酸類・塩類等の影響が及ばないようにする。
- ・かび・バクテリアによる害を生じさせないようにする。
- ・変質・変形を与えるような状態にしないようにする。  
やむを得ず、壁等にかける場合、釘等のロープを傷つけるものを避ける。
- ・直接床や地面に置かず、棚等に置く。
- ・積み重ねたり、上部に重量物を載せたりしない。
- ・一ひろ巻き等、次に使用する際に適した方法で保管する。

### 【ロープの車両積載時の留意事項】

- ・雨水・車両洗浄水等がかからない場所へ保管する。このような場所がないときは、防水袋等に入れる。  
この場合、むれないように換気措置をほどこす。
- ・バッテリー・泡原液等の積載位置から離す。
- ・狭いボックス等に無造作に押し込んだりしない。
- ・ほこり・外傷等から保護する。

## ロープ取り扱い

### 【ロープの整備】

- ・汚物・異物等をきれいに除去する。
- ・濡れたロープは必ず乾燥させる。乾燥は日陰で行い、直射日光および火気による方法はとらない。
- ・油脂・泥土・薬品等により汚損した場合、その部分を切断除去し、端末は瞬間接着剤または焼き止めとする。
- ・よりを完全に戻しておく。
- ・部分的に著しく損傷した箇所のあるロープは、その部分を切断接合したり、修理して使用せず、廃棄する。

### 【ロープの廃棄の目安】

- ・全体にリードの伸びが大きくなったものや、よりが戻って太くなっているもの。
- ・ロープのつぶれや、ヤーンやストランドの浮き・よりが戻って、ストランドに張力のバランスを欠くなどして、型崩れを生じたもの。
- ・ストランドの一部に切り傷等の損傷を受けているものや、異常な摩耗・毛羽立ちのあるもの。
- ・落下により衝撃荷重が700kg以上かかったと推定されるもの。
- ・ロープの推定判断強度の約40%以上の荷重がかかった※1と推定されるもの。 ※1 永久ひずみが生じる。
- ・酸・アルカリその他の薬品等におかされ、またはおかされたと推定されるもの。
- ・火災現場の熱および摩擦熱などにより、高熱により焼けが生じたり、軟化※1したもの  
※1 軟化は一時的現象で、冷えれば逆に硬化する。
- ・その他救助ロープとして、使用するのに適しないと判断されるもの。

### 【カラビナの使用上の留意事項】

- ・横方向の荷重に対して極めて弱いので、横方向に力がかからないようにする。

※O型安全環付きカラビナの縦方向の強度は1,600kg以上

- ・高所その他からの落下による衝撃を与えない。
- ・閉塞部を不用意にもてあそばない。
- ・一度強力な荷重がかかったものは、相当の強度が減じたものと考え、相応の使用をする。
- ・安全環は確実に締める。
- ・カラビナを2個併用する際、安全環を重ねないようにする。